

2021年の転職市場、選考基準「厳しくなる」約7割 即戦力へのシフトが加速 転職エージェント調査

日経HR（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：篠原昇司）が転職エージェント（人材紹介会社）を対象に2020年12月に中途採用に関する調査を実施しました。2021年の中途採用の求人件数は「増える」の予想が5割となる一方で、選考基準は「厳しくなる」との回答が約7割を占めました。コロナ禍で企業のコスト意識が高まる中、即戦力を求める傾向が続くと多くの転職エージェントは予想しています。21年転職のキーワードとして多く挙げたのは、DX(デジタルトランスフォーメーション)、IT、即戦力。企業のDXを推進する即戦力人材のニーズは今後も続きそうです。

●詳細は「日経転職版」(<https://career.nikkei.com/>)でも公開中！

■21年 求人件数の予測

21年求人件数は増加を見込む 中長期では増加予想7割に >> 詳細は2ページ

■21年 企業の選考基準

21年、企業の選考基準は「厳しくなる」が約7割
人件費抑制で即戦力を求める傾向強まる >> 詳細は3ページ

■21年 求人増となる「業界」予想

DXの流れを受けて 「IT・通信・インターネット」に集中 >> 詳細は4ページ

■21年 求人増となる「職種」予想

DXを支える「IT・Web・ネットワークエンジニア」
新規事業進出で「企画・マーケティング」も >> 詳細は5ページ

■21年 転職のキーワード

DXやIT、即戦力が採用のカギ 女性管理職、M&Aも注目 >> 詳細は6ページ

▽▽転職市場の現状

転職希望者数、求人件数の落ち込みが大きかった業界、職種 >> 詳細は6～8ページ

<調査概要>

■調査対象：国内の主要な転職エージェント（人材紹介会社） ■実施期間：2020年12月9日～18日

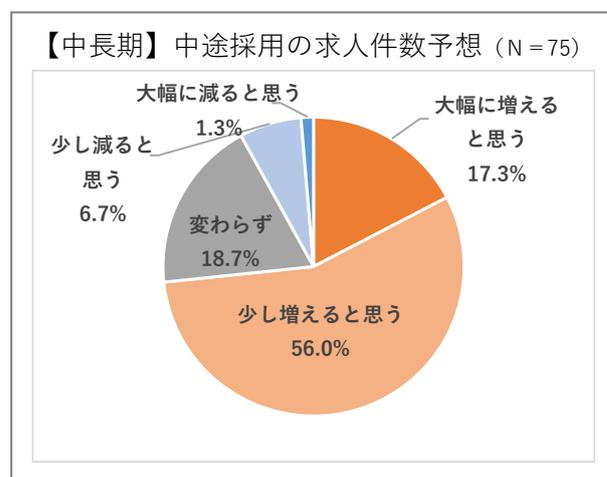
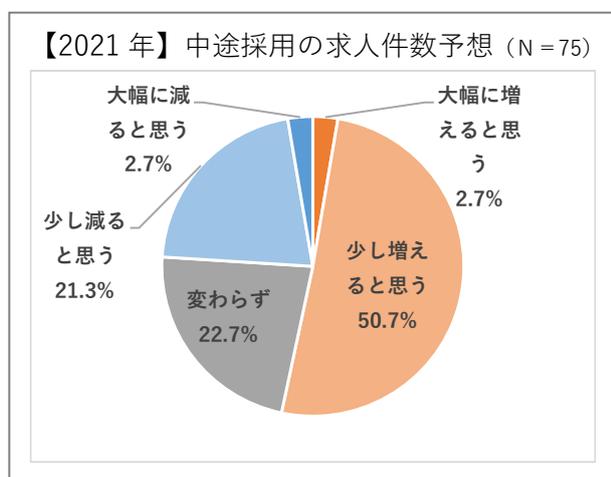
■調査方法：メールにて依頼し、Webサイトで回答 ■回答者数：75人（40社）

■21年 求人数の予測

2021年求人数は増加を見込む 中長期では増加予想7割に

2021年の中途採用求人数は「大幅に増えると思う」(2.7%)と「少し増えると思う」(50.7%)を合わせた「増える」は約5割でした。中長期では「大幅に増えると思う」が17.3%、「少し増えると思う」が56%で、「増える」は約7割となり、21年に比べ2割増えました。「増える」理由はコロナ収束後の景気回復や20年の採用控えの反動、コロナによる事業の見直し、新規事業進出に伴う人材獲得などです。

※参照⇒ P.7 転職市場の現状② 求人数の変化



(自由回答より抜粋)

●増える派

- ・日本の会社も変化を迫られているため、既存事業が厳しくとも、新規事業に対して重きをおくようになると思う。
- ・今期採用を抑制した部分の補充の意味合いで業績が回復、または見通しができそうな企業は徐々に採用が増えると思っている。

●減る派

- ・企業の21年3月期決算での赤字、中堅企業の倒産、地方銀行などの破綻による景気の見通し難が強まる。
- ・2021年度の採用予算が下がると推察する。

(自由回答より抜粋)

●増える派

- ・技術、ロイヤリティーを積み重ねる形の組織運営モデルが減り平均勤続年数が短くなることから、中途採用が増加。副業や顧問などのスポット採用を用いた事業運営が増える。
- ・ビジネスの形態を変える企業が多いと推察され、その際に(社内)教育では追いつかないことから採用活動は増加。

●減る派

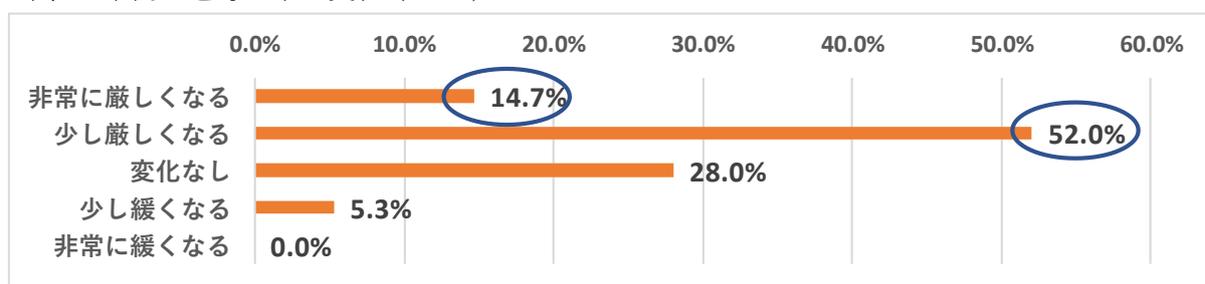
- ・各社の収益状況は二極化が進み、売り上げの拡大よりも収益効率を重視するため、効果的な人材確保に重点を置く傾向が強くなる。
- ・テクノロジーが発達し、人を置かなくてもいい業務が増える。

■21年 企業の選考基準

21年、企業の選考基準は「厳しくなる」が約7割
人件費抑制で即戦力を求める傾向強まる

2021年の企業側の選考基準は「少し厳しくなる」(52%)と「非常に厳しくなる」(14.7%)を合わせた「厳しくなる」が約7割となりました。選考のハードルが上がると予想する背景には、コロナの収束が見えない中、企業がコスト意識を高め人件費抑制へ動いている影響があるようです。企業は限られた予算の中で、即戦力となる人材に絞った採用を増やしています。

21年、企業側の選考基準の変化 (N=75)



(自由回答より抜粋)

●厳しくなる派

- ・役員などの経営者が面接官を務める最終面接の通過基準が厳しいまま推移する。
- ・即戦力を求め、良い人がいれば採用というスタンスではないかと考える。
- ・採用意欲が高い優良企業に応募者が殺到するため、より良い人を慎重に採用する傾向が強くなると思われる。
- ・即戦力の取り合いになる。企業が30代に求める経験をしていない30代が多く、結果として年齢層が少し高く優秀な人(40代前半)にチャンスあり。

●緩くなる派

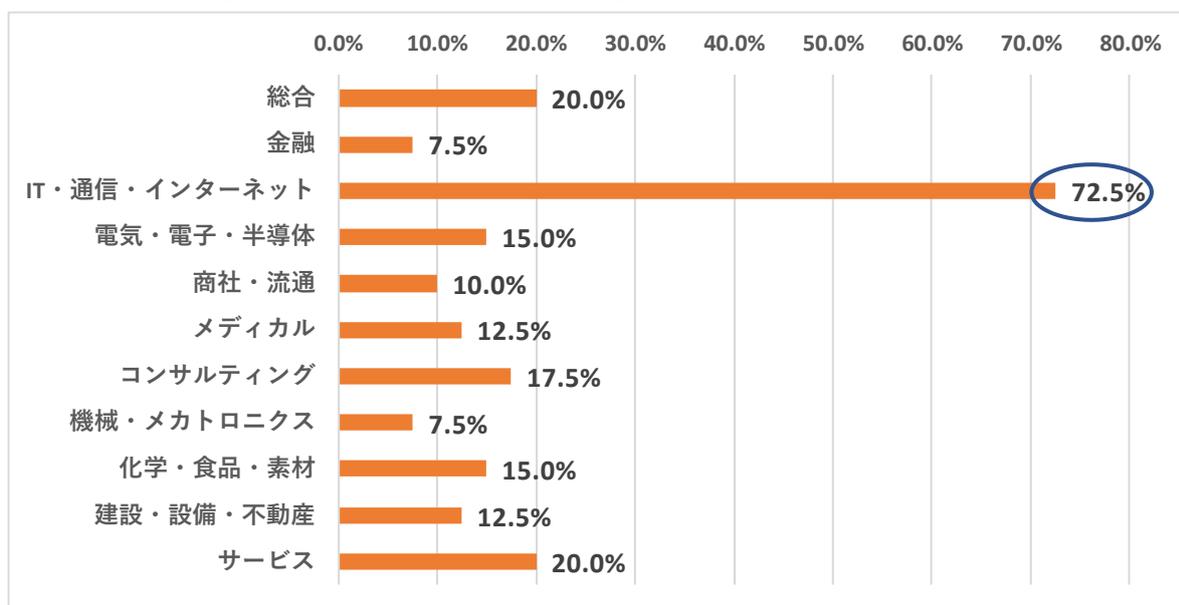
- ・21年後半にワクチンによりコロナがある程度制圧できるのではないかと前提。
- ・人材確保が厳しくなる環境に変わらないので、人材の争奪戦に負けないためにも多少ハードルを下げてでも人を採用したいと思う企業が増えていると思う。
- ・20年が極めて厳しく、採用人数を抑えた分、21年は少し緩和されると予想。

■21年 求人増となる「業界」予想 DXの流れを受けて 「IT・通信・インターネット」に集中

2021年の中途採用の求人件数が増えると回答した人を対象に、求人件数が特に増えるとみている業界について聞きました（複数回答）。回答は「IT・通信・インターネット」に集中（72.5%）。さまざまな業界、企業でDX（デジタルトランスフォーメーション）の流れが加速する中、DXを支援する業界はさらに活況は続き、求人件数も増えるという予想のようです。

※参照⇒ P.7 転職市場の現状③ 求人件数の落ち込みが大きかった「業界」

21年、中途採用の求人が増えると予想する業界（複数回答、3つまで）（N=40）



（自由回答より抜粋）

●IT・通信・インターネット

- ・引き続きIT・テクノロジーを活用したDX戦略におけるエンジニアを中心とした採用は増加傾向。
- ・デジタル化を推進していくうえでキーとなる企業群。またコロナに合わせた案件創出が見込めるため。

●サービス

- ・東京オリバラの開催を機に、底まで落ち込んでいたホテル・ブライダル業界の採用が復活してくると思われる。

●コンサルティング

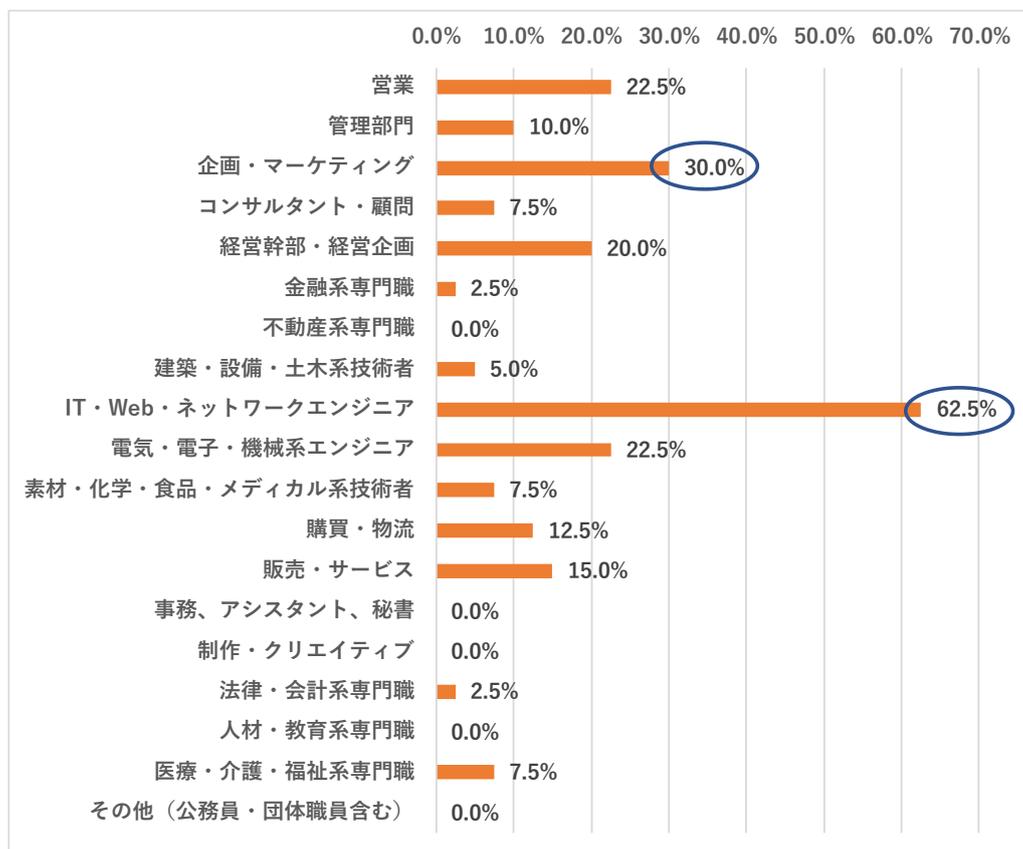
- ・社会の変化に対応できる社内組織を持っていない企業の利用が増加。

■21年 求人増となる「職種」予想 DXを支える「IT・Web・ネットワークエンジニア」 新規事業進出で「企画・マーケティング」も

前問と同様に、2021年に求人件数が特に増えるとみている職種について聞きました（複数回答）。求人が伸びる業界で「IT・通信・インターネット」が挙げられたことと連動し、職種はDXを推進する「IT・Web・ネットワークエンジニア」が最も多く62.5%でした。一方で、「企画・マーケティング」という回答も30%に上り、新規事業進出などに関わる人材ニーズの高まりがうかがえます。

※参照⇒ P.8 転職市場の現状④ 求人件数の落ち込みが大きかった「職種」

21年、中途採用の求人が増えると予想する職種（複数回答、3つまで）（N=40）



（自由回答より抜粋）

●IT・Web・ネットワークエンジニア

・テクノロジーを活用したビジネスにはエンジニアの存在が不可欠であるから。日本は慢性的なIT人材不足であり、今後もエンジニアの取り合いが繰り広げられると予想。

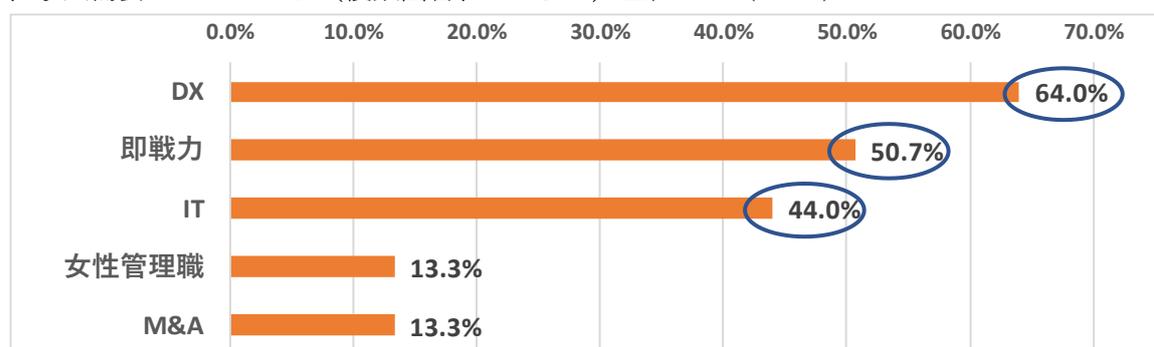
●企画・マーケティング

・コロナ後の社会に対応し、価値観の変化に対応できる企業をけん引する職種。
・売り上げが落ち込んだ企業が新たな戦略を打ち出す際、マーケティングポジションなどが増える見込み。

■21年 転職のキーワード DX や IT、即戦力が採用のカギ 女性管理職、M & A も注目

2021年、特に求人需要が高まりそうな人材のキーワードについて聞きました（複数回答）。「DX」が64%、「即戦力」が50.7%、「IT」が44%、上位3つに回答が集まりました。このほか「女性管理職」（13.3%）、「M&A」（13.3%）が続き、企業の女性活用推進やM&Aの増加が背景にあると思われる。これら以外に10%を超えたキーワード（選択肢）はありませんでした。

21年、求人需要のキーワード（複数回答、3つまで）上位5つ（N=75）

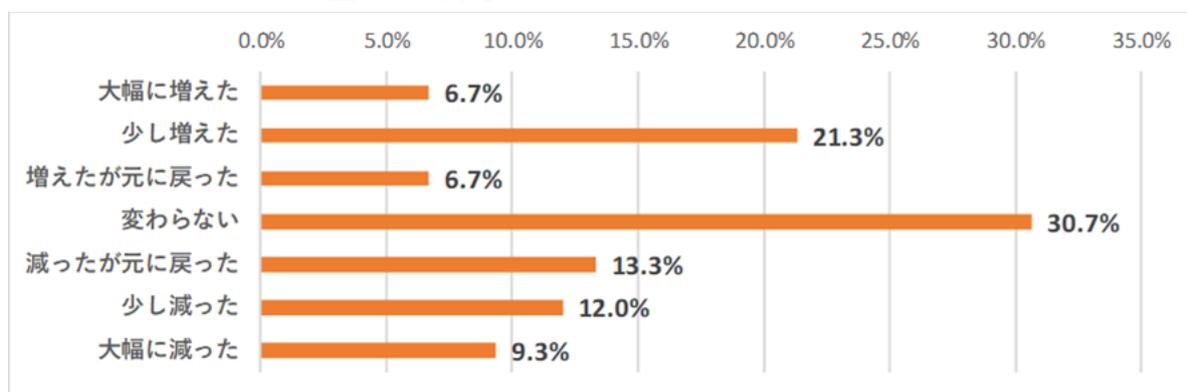


～転職市場の現状～

▽▽現状① 転職希望者数の変化 ・・・「変わらない」が3割

転職希望者数はどう変化したかについて聞くと最も多い回答は「変わらない」の30.7%で、「少し増えた」（21.3%）、「減ったが元に戻った」（13.3%）が続きました。コロナの影響により、転職を迫られる人がいる一方、慎重になる人もあり、全体では変わらないということのようです。

20年、コロナによる転職希望者数の変化（N=75）

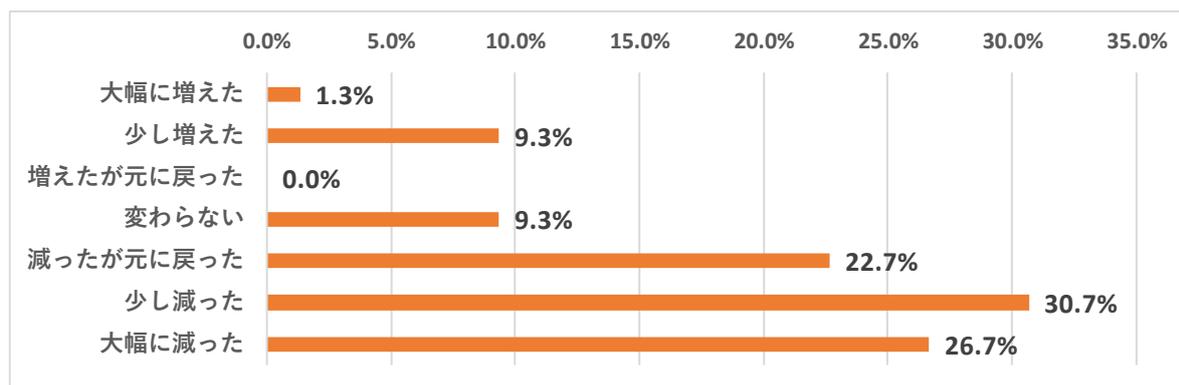


▽▽現状② 求人件数の変化

・・・「少し減った」「大幅に減った」5割超

求人件数の変化については、「少し減った」(30.7%)、「大幅に減った」(26.7%)に回答が集まりました。コロナの影響を受けた企業が採用に慎重になったようです。

20年、求人件数の変化 (N=75)

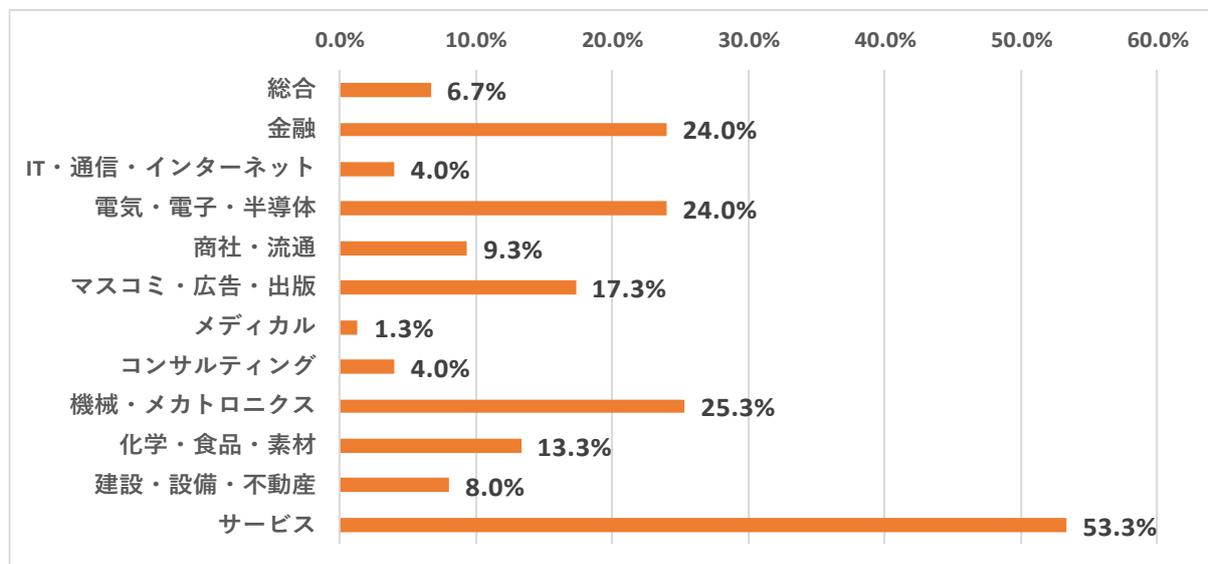


▽▽現状③ 求人件数の落ち込みが大きかった「業界」

・・・「サービス」「機械・メカトロニクス」

求人件数の落ち込みが大きかった業界は、外出自粛や営業時間短縮などの影響を大きく受けた「サービス」に回答が集中。そのほか、製造業の「機械・メカトロニクス」「電気・電子・半導体」、人員削減が進む「金融」を挙げる転職エージェントもいました。

20年、求人件数の落ち込みが大きかった「業界」(複数回答、3つまで) (N=75)



▽▽現状④ 求人件数の落ち込みが大きかった「職種」 ・・・「販売・サービス」「管理部門」「事務」

求人件数の落ち込みが大きかった業界については、前問で「サービス」が最多回答となったことに付随し、「販売・サービス」が56%となりました。また、「事務、アシスタント、秘書」「管理部門」の落ち込みもみられます。背景には、業務のIT化、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）化へ舵を切る企業の増加があるようです。

20年、求人件数の落ち込みが大きかった「職種」（複数回答、3つまで）（N=75）

